

【拡張仮想ディスプレイ VR 車両内の酔い防止】 Apple

①要約：

このアイデアは、自動運転車が普及する将来において、自動車で VR を利用することによる酔いの問題を解決するための技術です。特許では、車内での VR 利用時に酔いを軽減するために、実空間の映像を重ね合わせたり、車両の動作と同期した視覚的聴覚的な情報を提供する方法が提案されています。

②目的：

このアイデアの目的は、自動運転車内での VR 利用時に生じる酔いの問題を解決することです。自動運転車が普及すると、車内は移動空間となり、人々は自動車の運転に関与せず自由な活動ができるようになります。しかし、VR 利用時には酔いのリスクがあり、この特許はその問題を克服し、快適な VR 体験を実現することを目指しています。

③新規性：

このアイデアは、自動運転車内での VR 利用時に生じる酔いの問題を解決するために、実際の車両の映像を重ね合わせたり、車両の動作と同期した視覚的聴覚的な情報を提供するという方法です。これにより、VR 利用時の酔いを軽減し、快適な体験を提供します。

④独自性：

このアイデアの独自性は、自動運転車内での VR 利用時における酔いの問題に対する解決策を提供している点にあります。既存の VR 技術では酔いを軽減する方法が限られていましたが、この特許は実際の車両の映像や同期した情報を利用することで、酔いのリスクを低減し、より快適な VR 体験を実現することができます。

⑤経済価値：

このアイデアは、自動運転車市場において、快適な VR 体験を提供するための技術として経済的な価値があります。自動運転車が普及すると、車内の時間を有効活用するために VR 利用が増加すると予想されます。このアイデアにより、酔いの問題を解決し、利用者により良い体験を提供することができるため、需要が高まり、競争力のある市場での利益を生み出す可能性があります。また、特許権の保護により、他社からの模倣を防ぐことができるため、独自の技術を持つ競合他社との差別化を図ることもできます。